

施工説明書

ディースフィニッシュコート

このたびは Dea's Garden 製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。
正しく施工をして頂くために、施工説明書をよくお読みください。



< 下地条件 >

- ◆必ず、下地のモルタル施工後、10日（冬期14日）以上養生後、施工してください。
- ◆モルタルにクラックがある場合は補修してから施工してください。
- ◆表面強度が不足する場合は補強してください。

< 施工条件 >

- ◆施工面以外は養生し、万一付着した時はすぐに水洗いしてください。
- ◆降雨直後の施工は避け、壁面が乾燥したことを確認し、施工してください。（含水率8%以下pH10以下）
- ◆気温5℃以下湿度85%以上の場合は施工を避けてください。

< 使用上のご注意 >

- ◆施工前に必ずコンパネ等で試し塗りを行い、仕上がり・乾燥性を確認してください。
- ◆工事中は周辺のほかの部材及び仕上げ面を汚損しないよう養生テープにて養生を行ってください。
- ◆フィニッシュコートは表面の皮張りが早いいため、上塗り後、速やかにパターン付けを行ってください。表面が乾燥してしまうとパターン付けが出来なくなります。また、直射日光などの急激乾燥を避けて施工してください。
- ◆乾燥を確認した上、塗り継ぎ時間に注意してください。同一面は連続して施工してください。特に大面積を施工する場合は、作業人工や化粧目地による分割を検討してください。
- ◆練り水、容器、攪拌機などはきれいなものを使用してください。容器はプラスチックまたはステンレス製のものを使用して下さい。
- ◆施工中および乾燥までの降雨・降雪は避けてください。
- ◆使用後の器具はお湯または水にて洗浄してください。
- ◆製品ロットにより多少のバラツキがあります。

梱包明細表

- 開梱時に部品の種類と数量をご確認ください。
- 商品に異常がないことをご確認ください。

名 称	重量/数量
主 材	15kg/袋
混和液	2.2kg/袋
シーラー	1kg/個
施工説明書	1部

■施工方法 〈デーズパティオウォール仕上げ〉



<主な施工道具>

シーラー	ローラー・エアレスガン
下塗り	金コテ
上塗り	リシンガン（口径4～6mm）、金コテ
仕上げ	プラスチック木ゴテ
その他	骨材（寒水石1厘3.7kg、/3厘3.7kg、/5厘1.8kg）※別途

<練り混ぜ>

①下塗り用材料の練り混ぜ

配合	主材	15kg
	混和液	2.2kg
	清水	3～4ℓ（標準加水量）

練り混ぜ方法

プラスチック又はステンレスの容器に標準加水量の7～8割の水と混和液を入れ、電動攪拌機で攪拌しながら主材を加え、さらに残りの水を加え作業しやすい状態に練り混ぜてください。

②上塗り用材料の練り混ぜ

配合	主材	15kg
	混和液	2.2kg
	骨材（※別途）	
	（寒水石（1厘））	3.7kg
	（寒水石（3厘））	3.7kg
	（寒水石（5厘））	1.8kg
	清水	4～5ℓ（標準加水量）

練り混ぜ方法

プラスチック又はステンレスの容器に標準加水量の7～8割の水と混和液を入れ、電動攪拌機で攪拌しながら主材と骨材を加え、さらに残りの水を加え作業しやすい状態に練り混ぜてください。

<施工方法>

1.シーラー塗布

配 合	シーラー 1kg 清水 4ℓ
塗 布 量	(5倍液) 0.15~0.2kg/m ²
施工方法	ローラー刷毛又はエアレスガン

↓ 1~24時間

2.下塗り

塗 布 量	1.0kg/m ² (主材) 約15m ² /袋
施工方法	金ゴテにて平滑に塗布する。

↓ 4~24時間
乾燥を確認後、次の工程に移ってください。

3.上塗り

塗 布 量	1.5kg/m ² (主材) 約10m ² /袋
施工方法	リシンガンで吹き付ける。 吹付量に注意。

↓ 追いかけて (5分以内)

4.押さえ (仕上げ)

◆樹脂製モルタルコテをランダムに動かして、平滑に押さえる。(図-1 参照)

5.養生撤去等

◆養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐに撤去できない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行う。水切部などにバリが出ている場合は、カッターナイフ等で除去する。
◆施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。
◆足場つなぎ部を確認し、必要であればタッチアップ補修する。

<施工のポイント>

- ◆プラスチック木ゴテをランダムに動かして、できた凸部を平滑になるよう全体を押さえる。(図-1)
- ◆コテの滑りが悪い場合は、プラスチック木ゴテをきれいに洗浄してから、押さえ付けを行う。

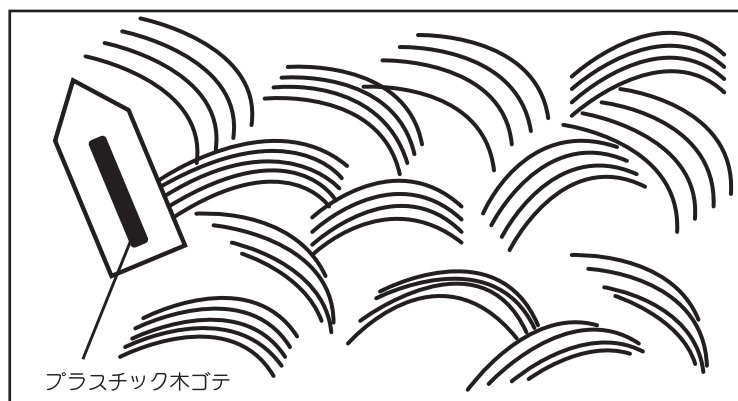


図-1

■施工方法 〈トワイライト仕上げ〉



<主な施工道具>

シーラー	ローラー・エアレスガン
下塗り	金コテ
上塗り	金コテ
パターン付け	発泡スチロールゴテ（スタイロフォーム等の発泡スチロールでも可） 仕上げコテ（ステンレス製の腰の柔らかいもの）
その他	骨材（寒水石5厘 6kg、7厘6kg）※別途

<練り混ぜ>

①下塗り用材料の練り混ぜ

配 合	主材	15kg
	混和液	2.2kg
	清水	3～4ℓ（標準加水量）

練り混ぜ方法

プラスチック又はステンレスの容器に標準加水量の7～8割の水と混和液を入れ、電動攪拌機で攪拌しながら主材を加え、さらに残りの水を加え作業しやすい状態に練り混ぜてください。

②上塗り用材料の練り混ぜ

配 合	主材	15kg
	混和液	2.2kg
	骨材（※別途） （5厘6kg、7厘6kg）	12kg
	清水	4～5ℓ（標準加水量）

練り混ぜ方法

プラスチック又はステンレスの容器に標準加水量の7～8割の水と混和液を入れ、電動攪拌機で攪拌しながら主材と骨材を加え、さらに残りの水を加え作業しやすい状態に練り混ぜてください。

<施工方法>

1.シーラー塗布

配 合	シーラー 1kg 清水 4 $\frac{1}{2}$ ℓ
塗 布 量	(5倍液) 0.15~0.2kg/m ²
施工方法	ローラー刷毛又はエアレスガン

↓ 1~24時間

2.下塗り

塗 布 量	1.0kg/m ² (主材) 約15m ² /袋
施工方法	金ゴテにて平滑に塗布する。

↓ 4~24時間
乾燥を確認後、次の工程に移ってください。

3.上塗り

塗 布 量	1.5kg/m ² (主材) 約10m ² /袋
施工方法	金ゴテにて平滑に材料を配る。

↓ 追いかけ (5分以内)

4.パターン付け

◆発泡スチロールゴテを円状に動かし、骨材が転がった跡をつける。(図-1)
◆発泡スチロールゴテに付着した材料は、濡れウエスやブラシなどで洗い、常にきれいに保つ。

↓ 追いかけ (5分以内)

5.押さえ (仕上げ)

◆仕上げゴテを円状に動かし、平滑に押さえる。(図-2)

6.養生撤去等

◆養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐに撤去できない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行う。水切部などにバリが出ている場合は、カッターナイフ等で除去する。
◆施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。
◆足場つなぎ部を確認し、必要であればタッチアップ補修する。

<施工のポイント>

- ◆スチロールゴテを円状にランダムに動かし、骨材が転がるようにパターン付けを行う。(図-1)
- ◆骨材が転がりにくい場合は、スチロールゴテをきれいに洗浄してから、パターン付けを行う。
- ◆仕上げゴテ(波消しゴテ)を円状に動かし、骨材が転がってできた凸部を平滑になるよう押さえる。(図-2)

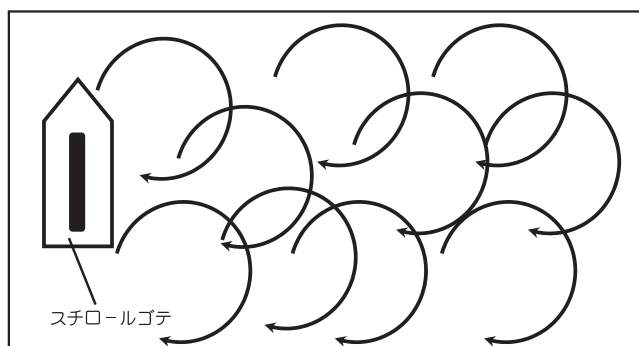


図-1

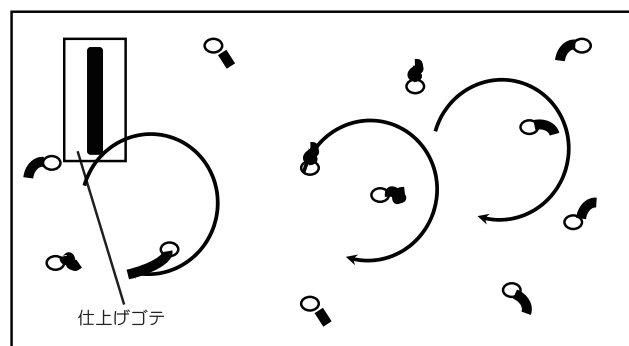
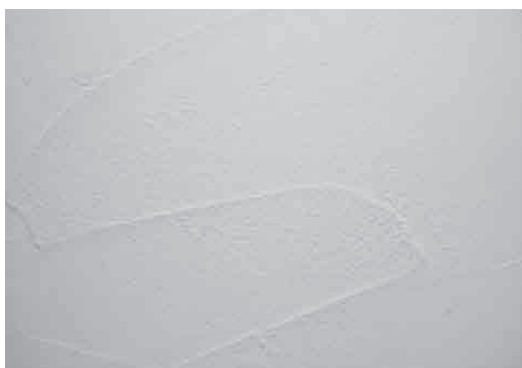


図-2

■施工方法 〈テラ仕上げ〉



<主な施工道具>

シーラー	ローラー・エアレスガン
下塗り	金コテ
上塗り	金コテ
パターン付け	金コテ

<練り混ぜ>

①下塗り用材料の練混ぜ

配 合	主材	15kg
	混和液	2.2kg
	清水	3～4ℓ (標準加水量)

練り混ぜ方法

プラスチック又はステンレスの容器に標準加水量の7～8割の水と混和液を入れ、電動攪拌機で攪拌しながら主材を加え、さらに残りの水を加え作業しやすい状態に練り混ぜてください。

②上塗り用材料の練混ぜ

配 合	主材	15kg
	混和液	2.2kg
	清水	3～4ℓ (標準加水量)

< 施工方法 >

1.シーラー塗布

配 合	シーラー 1kg 清水 4 $\frac{1}{2}$ ℓ
塗 布 量	(5倍液) 0.15~0.2kg/m ²
施工方法	ローラー刷毛又はエアレスガン

↓ 1~24時間

2.下塗り

塗 布 量	1.0kg/m ² (主材) 約15m ² /袋
施工方法	金ゴテにて平滑に塗布する。

↓ 4~24時間
乾燥を確認後、次の工程に移ってください。

3.上塗り

塗 布 量	1.0kg/m ² (主材) 約15m ² /袋
施工方法	金ゴテにて平滑に材料を配る。

↓ 追いかけて (5分以内)

4.パターン付け

◆上塗り後、金ゴテを用い追っかけてパターン付けを行います。
◆模様ジョイント部分がランダムになるように模様を付けてください。(図-1、2)



5.養生撤去等

◆養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐに撤去できない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行う。水切部などにバリが出ている場合は、カッターナイフ等で除去する。
◆施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。
◆足場つなぎ部を確認し、必要であればタッチアップ補修する。

< 施工のポイント >

- ◆コテの大きさや形状によってパターンは多少異なります。
- ◆まっすぐ横にコテを引くのではなく、大きく弧を描くようにパターン付けを行います。(図-1)
- ◆パターンがそろわないよう、ランダムに施工してください。(図-2)

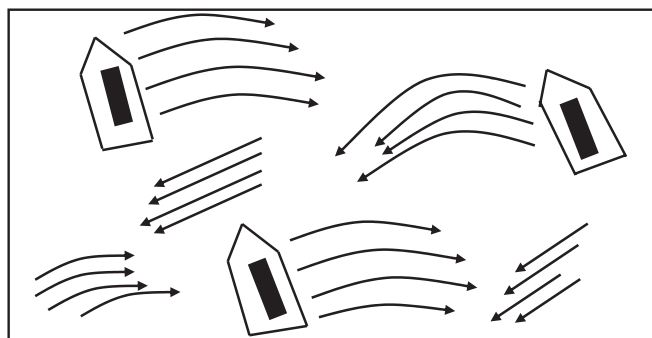


図-1



図-2

■施工方法 〈フォレスト仕上げ〉



<主な施工道具>

シーラー	ローラー・エアレスガン
下塗り	金コテ
上塗り	金コテ
パターン付け	発泡スチロールゴテ（スタイロフォーム等の発泡スチロールも可）または プラスチック木ゴテ 仕上げコテ（ステンレス製の腰の柔らかいもの）
その他	骨材（寒水石5厘6kg,7厘6kg）※別途

<練り混ぜ>

①下塗り用材料の練り混ぜ

配 合	主材	15kg
	混和液	2.2kg
	清水	3～4ℓ（標準加水量）

練り混ぜ方法

プラスチック又はステンレスの容器に標準加水量の7～8割の水と混和液を入れ、電動攪拌機で攪拌しながら主材を加え、さらに残りの水を加え作業しやすい状態に練り混ぜてください。

②上塗り用材料の練り混ぜ

配 合	主材	15kg
	混和液	2.2kg
	骨材（※別途） （5厘6kg、7厘6kg）	12kg
	清水	4～5ℓ（標準加水量）

練り混ぜ方法

プラスチック又はステンレスの容器に標準加水量の7～8割の水とキャンドル混和液を入れ、電動攪拌機で攪拌しながらキャンドル粉体と骨材を加え、さらに残りの水を加え作業しやすい状態に練り混ぜてください。

< 施工方法 >

1.シーラー塗布

配 合	シーラー 1kg 清水 4ℓ
塗 布 量	(5倍液) 0.15~0.2kg/m ²
施工方法	ローラー刷毛又はエアレスガン

↓ 1~24時間

2.下塗り

塗 布 量	1.0kg/m ² (主材) 約15m ² /袋
施工方法	金ゴテにて平滑に塗布する。

↓ 4~24時間
乾燥を確認後、次の工程に移ってください。

3.上塗り

塗 布 量	1.5kg/m ² (主材) 約10m ² /袋
施工方法	金ゴテにて平滑に材料を配る。

↓ 追いかけて (5分以内)

4.パターン付け

施工方法	◆発泡スチロールゴテを横に動かし、骨材が転がった跡をつける。(図-1) ◆発泡スチロールゴテに付着した材料は、濡れウエスやブラシなどで洗い、常にきれいに保つ。
------	--

↓ 追いかけて (5分以内)

5.押さえ (仕上げ)

施工方法	仕上げゴテを横に動かし、凸部を平滑に押さえる。(図-2)
------	------------------------------

6.養生撤去等

◆養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐに撤去できない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行う。水切部などにバリが出ている場合は、カッターナイフ等で除去する。
◆施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。
◆足場つなぎ部を確認し、必要であればタッチアップ補修する。

< 施工のポイント >

- ◆スチロールゴテを横に動かし、寒水石が転がるようにパターン付けを行う。(図-1)
- ◆骨材が転がりにくい場合は、スチロールゴテをきれいに洗浄してから、パターン付けを行う。
- ◆仕上げゴテ(波消しゴテ)を横に動かし、骨材が転がってできた凸部を平滑になるよう押さえる。(図-2)

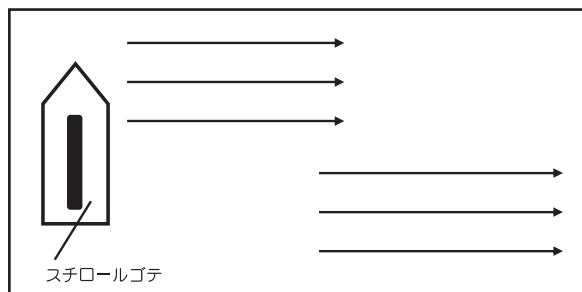


図-1

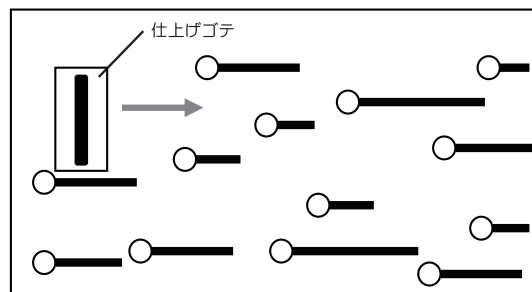


図-2

■施工方法 〈横ライン仕上げ〉



<主な施工道具>

シーラー	ローラー・エアレスガン
下塗り	金コテ
上塗り	金コテ
パターン付け	金ゴテまたはプラスチック木ゴテ (図-1)



プラスチック木ゴテ (裏面)

図-1

<練り混ぜ>

配 合	主材	15kg
	混和液	2.2kg
	清水	3~4ℓ (標準加水量)

練り混ぜ方法

プラスチック又はステンレスの容器に標準加水量の7~8割の水と混和液を入れ、電動攪拌機で攪拌しながら主材を加え、さらに残りの水を加え作業しやすい状態に練り混ぜてください。

<施工方法>

1.シーラー塗布

配 合	シーラー 1kg 清水 4ℓ
塗 布 量	(5倍液) 0.15~0.2kg/m ²
施工方法	ローラー刷毛又はエアレスガン

↓ 1~24時間

2.下塗り

塗 布 量	1.0kg/m ² (主材) 約15m ² /袋
施工方法	金ゴテにてしごくように平滑に塗布する。

↓ 4~24時間
乾燥を確認後、次の工程に移ってください。

3.上塗り

塗 布 量	1.5kg/m ² (主材) 約10m ² /袋
施工道具	金ゴテ
上塗りは金ゴテを使用し、均一に塗り付ける。 (厚さ2mm程度)	

↓ 追いか

4.パターン付け

施工道具	金ゴテ又はプラスチック木ゴテ
◆上塗り後、直ちに金ゴテ又はプラスチック木ゴテで横方向にランダムにパターンを付ける。(図-2)	
◆模様が規則正しくならないように、注意する。	

5.養生撤去等

◆養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐに撤去できない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行う。水切部などにバリが出ている場合は、カッターナイフ等で除去する。	
◆施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。	
◆足場つなぎ部を確認し、必要であればタッチアップ補修する。	

<施工のポイント>

- ◆金ゴテの全面均等に力を入れ、材料をなでるようにして、横方向直線状にパターン付けを行います。(図-2)

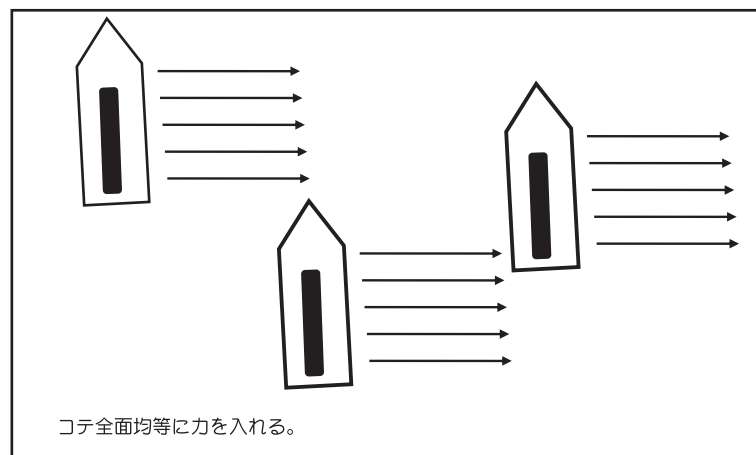
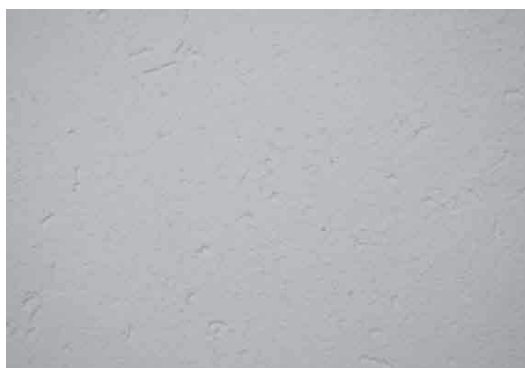


図-2

■施工方法 〈サンレモ仕上げ〉



<主な施工道具>

シーラー	ローラー・エアレスガン
下塗り	金コテ
上塗り	金コテ
パターン付け	プラスチック木ゴテ (図-1)
仕上げ	ステンレス製の柔らかいコテ
その他	骨材 (寒水石3厘1.5kg)



プラスチック木ゴテ (裏面)

図-1

<練り混ぜ>

①下塗り用材料の練り混ぜ

配 合	主材	15kg
	混和液	2.2kg
	清水	3~4% (標準加水量)

練り混ぜ方法

プラスチック又はステンレスの容器に標準加水量の7~8割の水と混和液を入れ、電動攪拌機で攪拌しながら主材を加え、さらに残りの水を加え作業しやすい状態に練り混ぜてください。

②上塗り用材料の練り混ぜ

配 合	主材	15kg
	混和液	2.2kg
	骨材 (※別途)	
	(寒水石3厘)	1.5kg
	清水	3~4% (標準加水量)

練り混ぜ方法

プラスチック又はステンレスの容器に標準加水量の7~8割の水と混和液を入れ、電動攪拌機で攪拌しながら主材と骨材を加え、さらに残りの水を加え作業しやすい状態に練り混ぜてください。

<施工方法>

1.シーラー塗布

配 合	シーラー 1kg 清水 4 $\frac{1}{2}$ 倍
塗 布 量	(5倍液) 0.15~0.2kg/m ²
施工方法	ローラー刷毛又はエアレスガン

↓ 1~24時間

2.下塗り

塗 布 量	1.0kg/m ² (主材) 約15m ² /袋
施工方法	金ゴテにて平滑に塗布する。

↓ 4~24時間
乾燥を確認後、次の工程に移ってください。

3.上塗り

塗 布 量	1.5kg/m ² (主材) 約10m ² /袋
施工方法	金ゴテにて平滑に材料を配る。 塗り付け量が多いとパターン付けのときに骨材が転がりにくく、パターンが出づらくなるので厚く付けすぎない。

↓ 追いかけて (5分以内)

4.パターン付け

◆上塗り後、プラスチック木ゴテを用い追っかけてパターン付けを行います。
◆プラスチック木ゴテを円状に動かし、部分的に骨材が転がった跡をつけてください。(転がしは1cm程度) (図-2)
◆プラスチック木ゴテは常にきれいに保ってください。仕上げ材が樹脂製モルタルコテに付着しますので、ウエスやブラシなどを用い、落としてください。

5.養生撤去等

◆養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐに撤去できない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行う。水切部などにバリが出ている場合は、カッターナイフ等で除去する。
◆施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。
◆足場つなぎ部を確認し、必要であればタッチアップ補修する。

<施工のポイント>

- ◆プラスチック木ゴテを円状に動かし、コテの腹で骨材を転がしてください。
- ◆骨材を転がす幅の目安は1cmくらいでランダムにパターンをつけてください。(図-2)
- ◆キャンドルの表面が平滑になるように仕上げゴテを円状に動かし、押さえてください。
- ◆押さえれば押さえるほど、骨材の転がった跡は消えますので、全体のバランスをみながら押さえてください。(図-3)

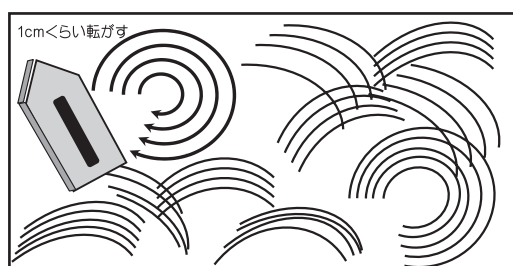


図-2

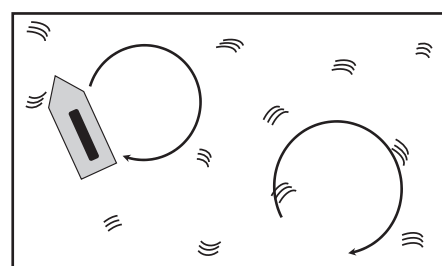


図-3

<安全上のご注意>

- ◆取扱中はできるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて保護具を着用してください。
- ◆目に入った場合は、ただちに清浄な水で最低15分間、目を洗浄した後、直ちに眼科医の手当を受けてください。
- ◆室内で使用する場合は換気を十分とってください。
- ◆飲み込んだ場合は清浄な水で口の中をよく洗浄し、直ちに医師の手当を受けてください。
- ◆取り扱い後は頭、手、口等を十分洗浄してください。
- ◆子供の手の届かないところに保管してください。

<保管上のご注意>

- ◆製品湿気・凍結・直射日光を避け、気温5℃以上40℃以下で保管してください。
- ◆開封した材料は早めに使い切ってください。
- ◆製造年月日より、1年以内に使用してください。

<輸送上のご注意>

- ◆漏出を避けるため、容器の損傷がないことを確かめ、転倒・落下・損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行ってください。
- ◆降雨等の水ぬれに配慮してください。

<廃棄上のご注意>

- ◆都道府県条例に基づき処理するか、許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託してください。



〒601-8317 京都市南区吉祥院新田式ノ段町45
TEL 075-681-2891 FAX 075-662-1190
株式会社 傳來工房

DPP-IM1
2015.09A